このたびは、MSXView 1.21 をご購入いただきまして、まことにありがとうございます。このパッケージには、以下のものが入っています。

MSXView 1.21 ディスク（実行用・保存用）	各1枚
OverVIEW ディスク	1枚
MSXView 漢字 ROM カートリッジ	1個
MSXView ver.1.21 マニュアル	1冊
MSXView VSHELL マニュアル	1冊
MSXView アプリケーションマニュアル	1冊

上記のうち、実行用ディスクと保存用ディスクの内容は同じです。普段は実行用ディスクを使用し、保存用ディスクは万一の場合のために、大切に保管しておいて下さい。やむを得ず、保存用ディスクを使うときは、必ず**書き込み禁止状態**にして下さい。

「ver.1.21 マニュアル」は、MSXView 1.0 から 1.21 の変更点だけを解説しています。「VSHELL マニュアル」と「アプリケーションマニュアル」は MSXView 1.0 と共通です。したがって、一部の記述は MSXView 1.0 のままになっています。恐れ入りますが、下記の正誤表を参考にして下さい。

VSHELL マニュアル

ページ	行	誤	正
6	8	マニュアル2冊	マニュアル3冊
7	18	次の2冊の	次の3冊の
7	19	（追加）	・ver.1.21 マニュアル ver.1.21 で変更された点を説明します。
9	14	03-486-7114	03-3486-7114
10		○MSXView 対応プリンタ一覧表	ver.1.21 マニュアル P.10 参照
13	9	「1.4.3 バックアップの作り方」〜	
16	22	「… ドライブ A）が使用されます。」	この説明書の P.2「ver1.21 をフロッピーディスクで使うには」をご覧下さい。
21	1〜	1.5.3 環境変数の設定	ver.1.21 マニュアル P.16 参照
30	21,22	起動した〜マウスを使う）	削除
31	1〜3	MSXView は〜起動して下さい。	ver.1.21 マニュアル P.16 参照

ページ	行	誤	正
31	21	3.1.2 終了するとき	マウスでも操作できます。
32	9〜23	3.1.3 マウスを使う	この操作は必要ありません。
61	2〜	5.1 システム設定	ver.1.21 マニュアル P.8 参照
63	13〜	◯プリンタドライバー一覧	ver.1.21 マニュアル P.10 参照
67	1〜	5.5 外字作成	ver.1.21 マニュアル P.9 参照

アプリケーションマニュアル

ページ	行	誤	正
42	4〜	1.1 セレクトツール	ver.1.21 マニュアル P.11 参照
96	5〜	6.3 描きつぶし	〃
104	8〜	9.9 消しゴム	〃
109		PageBOOK	ver.1.21 マニュアル P.11〜13 参照
118	28〜	2.4.1 palette	ver.1.21 マニュアル P.12 参照

ver.1.21 マニュアルと VSHELL マニュアルおよびアプリケーションマニュアルに書かれている内容が異なるときは、ver.1.21 マニュアルの記述を優先して下さい。

1 ver.1.21 をフロッピーディスクで使うには

ver.1.21 をフロッピーディスクで起動するときは、実行用ディスクをそのまま使用します。オリジナルの実行用ディスクを使うことに不安を感じる方は、実行用ディスクのバックアップディスクを作成し、それを使うこともできます。バックアップディスクの作成手順は次のとおりです。

1. 周辺機器、本体の電源を投入し、ドライブに実行用ディスクを挿入します。MSX のロゴマークが表示され、ディスクがアクセスされます。しばらく待つと、MSXView 1.21 の VSHELL が起動します。
2. 未使用のフロッピーディスクをフォーマットします。

   (a) 画面左上の、VSHELL 1.1 の部分をクリックし、タイトルバーを開きます。

   (b) タイトルメニューから、「フォーマット」を選択します。

(c) フォーマットのダイアログボックスが表示されるので、フォーマットの種類を選択します。

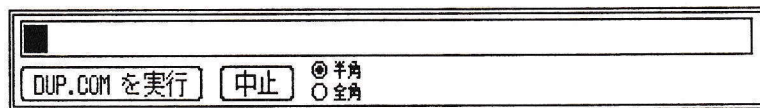
(d) 「初期化しますか」と確認されるので、フォーマットするときは「はい」を選択します。

(e) マウスカーソルが砂時計（⌛）の形になり、フォーマットが始まります。マウスカーソルが矢印（↖）の形になると、作業は終了です。

このフォーマットしたディスクに、実行用ディスクをコピーします。

3. 実行用ディスクのコピーを作成します。

(a) 画面左上の、DOS の部分をクリックします。

(b) 実行可能なコマンドが表示されるので、DUP.COM をダブルクリック（もしくは、プログラムを選択して 実行 をクリック）すると、パラメータを入力するウィンドウが表示されます。

DUP.COM にはパラメータはないので、**DUP.COM を実行** をクリックします。ディスクドライブが 2 台以上接続されているシステムでは、DISKCOPY.COM を使うのが簡単です。DUP.COM の使い方は、「VSHELL マニュアル」の P.16 〜 P.17 を、DISKCOPY.COM の使い方は、「VSHELL マニュアル」の P.18 〜 P.19 をご覧下さい。

4. これで、実行用ディスクのバックアップが終了しました。以降は、このバックアップディスクを実行用ディスクとしてお使い下さい。

2 ver1.21 をハードディスクで使うには

MSXView 1.21 をハードディスクで使うには、実行用ディスクの ¥VIEW ディレクトリの内容を、ハードディスクにコピーしなければなりません。初めてハードディスクを使う方は、VSHELL マニュアルの P.20「1.5.2 ハードディスクへのインストール」を参照して下さい。現在、使用しているハードディスクで MSXView 1.21 を使うときは、次の手順でハードディスクへのコピーします。

この例では、A ドライブがハードディスク、B ドライブがフロッピーディスクで、ハードディスクのディレクトリ構成は MSXView の標準的なものという前提で説明

しています。ドライブの構成やディレクトリ構成が異なるときは、自分のシステムに合わせて指定して下さい。

1. MSX-DOS2 を起動します。
2. `A>KXCOPY B:¥VIEW A:¥VIEW /S/E↵` と入力します（実際に入力するのは、アンダーラインの部分）。
3. コピーが終了したら、ハードディスクの REBOOT.BAT に MSXView で必要な環境変数を設定します。設定内容は、MSXView 1.21 実行用ディスクの REBOOT.BAT を参照して下さい。
4. REBOOT.BAT の変更が終わったら、リセットして MSXView を起動します。

3 ViewCALC システムディスクへのインストール

ViewCALC をお持ちの方は、お使いの ViewCALC のシステムディスクへ MSXView ver.1.21 をインストールすることができます。インストールの手順は、「ViewCALC ユーザーズマニュアル」の P.9〜P.13 の説明にしたがって下さい。ただし、1 ドライブのシステムでは、ディスクの入れ換え回数が増えます（約 45 回）。特に、インストールプログラムで画面に表示される目盛りが 15%の位置を示しているときに、入れ換え回数が多くなりますが（約 30 回）、この現象は正常です。

4 ver.1.21 マニュアルの訂正

ver.1.21 マニュアルの P.23 から以下のファイルが抜け落ちてしまいました。このファイルは、「OverVIEW ディスク」には入っています。

ファイル（ディレクトリ）名	アイコン	内容
DOS1.CMN		OverVIEW を作成するための PageEDIT のデータ
DOS2.CMN		
DOS3.CMN		
にわとり.CMN		